



村小だより

平成30年5月11日発行

子どもを導く 両輪となって

校長 鈴木 正美

145年目となる創立記念日(5月6日)も過ぎ、いよいよ村上小学校の教育活動が本格的に進んでいく時節を迎えています。

265名の子どもたちも、新学期が始まり一ヶ月経ち、すっかり新しい学年や学級などに慣れ、元気に活動する様子が随所に見られるようになりました。どの学年も明るいあいさつで一日がスタートする、とてもすばらしい状況です。保護者、地域等、様々な方々からのご支援に感謝です。

また、17日(木)にはマラソン大会が中州公園で予定されています。各自のめあて達成に向けた自分自身との戦い、よきライバルとの競い合いをとおして、心身をたくましく鍛えること、互いに励まし合うことの大切さを感じてほしいと願っているところです。今年も村小っ子の「本気」に、大人も子どもも心が動く大会になってほしいと願っています。

若葉茂る5月、一人一人の子どもに目を向けながら、「村上小の教育」を一步一步、着実に進めていきたいと考えています。ご理解とご協力、よろしくお願いします。

<学校説明会(4/27)での校長の話から(抜粋)>

◆「学び」の入門期である小学校教育が担う重要な役割の一つが「学習をとおして、分かるって楽しいなあ、できるって楽しいなあと感じさせること」と考えています。この感情なくして、次の中学校段階での「学ぶ意欲の向上」等に、つながることはないからです。

「学ぶ楽しさ」とは、表面的な面白さや楽しさではありません。何かを成し遂げた喜びがもたらしたものでなければならないと考えます。そのために私たちは、発達段階に応じた課題に向かい、一人一人や集団で、精一杯の力を尽くして解決することを大切に授業を積み上げることが重要であると考え、日々の実践に努めます。

◆平成30年度のグランドデザインです。今年一年、様々な方々や関係機関からご支援をいただいたり、連携を図ったりしながら、村上市教育の目標や村上小の教育目標の具現に向け、どのようなことを重点にし、どのような取組を大切にしていくか等の学校経営、学校運営の構想を示したものです。教育目標、知・徳・体それぞれの重点の達成を目指した具体的方策について、全職員の英知を結集して、教育活動の充実に努めます。「家庭と学校は車の両輪」の意味するところをご理解いただき、皆様とともに村小っ子を育て、伸ばしていきたいと思っています。

◆変な言い方をしますが、「子どもの前で学校批判、担任批判をしないほしい」という願いです。子どもたちは、大好きな家族を頼りにしています。また、学校や担任のことも少なからず、頼りにしているものです。自分が頼りにしている人が、もう一方の頼りにしている人を批判するのを見聞きすることは、「子どもを迷わすことにつながり、心が不安定になることが多い」のです。私たち教職員も、子どもたちのために精一杯努めますが、いたらない点もあるかと思います。そのようなときには、是非、電話や面談等の方法で、直接お考えをお聞きできればと思います。

※グランドデザインは村上小のホームページでご覧いただけます。